

## 会場までの交通アクセスと案内図



## 交通機関

飛行機		フェリー	
東京→	1時間35分	神戸・大阪	→大分 11時間35分
名古屋→	1時間10分	八幡浜→臼杵	2時間25分
大阪→	55分	八幡浜→別府	2時間50分
		三崎→佐賀関	1時間10分
		宿毛→佐伯	3時間

■大分空港から空港バス  
利用で市内へ(約1時間)

JR		
博多→	2時間01分	JR大分駅
小倉→	1時間18分	↓
熊本→	2時間24分	大在駅
宮崎→	2時間59分	(約15分)
鹿児島→	3時間38分	大在駅から
広島→	2時間19分	日本文理大学
大阪→	3時間49分	徒歩20分

高速バス			
福岡→	2時間11分	熊本→	3時間36分
長崎→	3時間40分	鹿児島→	5時間29分

※各種交通機関に関する情報は変更が生じることがあります。  
※所要時間は最短の時間です。

# 第20回 日本ボランティア学習学会 in おおいた

メインテーマ 「世界を見つめ、地域で輝く」

日時：平成29年11月18日(土) 13:30～  
19日(日) 10:00～

会場：日本文理大学  
〒870-0397 大分県大分市一木 1727

主催：日本ボランティア学習協会

共催：日本文理大学

後援：大分県教育委員会、大分市教育委員会、大分県社会福祉協議会、大分市社会福祉協議会  
(申請中) 豊後大野市、日田市、日田市社会福祉協議会

運営：第20回日本ボランティア学習学会大分大会実行委員会

### 【開催趣旨】

世界的な課題に取り組む活動、地域の問題に取り組む活動の双方は多くの経験をもとに進化を続けています。この両者の進化発展をとらえ、「我々は今何を学び、行動しなければならないのか？」と問われると、Think Globally, Act Locally の考え方をもってしてその関連性を明らかにし、接続していかなければなりません。

活動の実行者としての「学校・社会教育施設・非営利組織・ボランティア・市民活動センター・学生」の事例をもとに、各分科会で議論を深め新たな可能性について探ります。

第一部オープニングシンポジウムでは、「ボランティア学習”多事争論”～もっと自由に、もっと多彩に～」と題し議論をスタートします。

### 参加申し込み及び問合せ 申込期限は10月31日(火)

【会員】日本ボランティア学習協会会員の方は、同封の申込書に必要事項を記入の上、返信して下さい。会員総会の出欠返信と委任状を兼ねています。(参加費は500円)

【会員以外】会員以外の方は、「氏名、所属、住所、連絡先、参加希望分科会番号、情報交換会出欠」の6点を記して、郵送かFAXかメールで下記あてにお申し込みください。(参加費は1,000円)

ただし、高校生・大学生の参加費は無料です。

## 日本ボランティア学習学会 大分大会事務局

〒870-0397 大分県大分市一木 1727 日本文理大学 人間力育成センター内

FAX: 097-524-2750 Email: n-power@nbu.ac.jp HP: http://www.volunteer-learning.jp/

## 日本ボランティア学習協会

〒180-8629 武蔵野市境 5-24-10 亜細亜大学 1号館 栗田研究室内

FAX: 03-6730-1556

# 第20回 日本ボランティア学習学会 in おおいた プログラム

## 「世界を見つめ、地域で輝く」

11月18日(土)

12:00～13:00

日本ボランティア学習協会 理事会 (22号館 2222教室)

13:00～13:30

大会参加受付 (22号館 1階入口)

13:30～14:30

開会行事 (22号館 2212教室)

- ・ 歓迎の演舞 日本文理大学沖縄県人会
- ・ 開催校の挨拶 日本文理大学 学長 菅 貞淑
- ・ アレックディクソン賞授賞式

14:45～16:45

シンポジウム (22号館 2212教室)

「ボランティア学習”多事争論”～もっと自由に、もっと多彩に～」  
IT技術の発展により情報化社会といわれる現在では、マスメディアの発信のならず個人の情報発信も比較的容易に可能である。デジタルなデバイスの有効活用も謙虚に受け止めながら、今こそ膝を突き合わせたアナログな議論の必要性と将来性を大分県出身の教育者、福沢諭吉の言葉とされる「多事争論」をキーワードに議論を深める。

〈パネリスト〉

日田市長 原田啓介氏

浮雲工房・主宰 金刺潤平氏

昭和女子大学 サービスラーニングセンター長 興梶寛氏

〈コーディネーター〉

日本文理大学 人間力育成センター長 高見 大介氏

16:55～17:55

研究発表会 (22号館 2212教室)

① 課題研究発表

② 会員自由研究発表

(10月31日(火)までに大会事務局宛に申込)

18:10～19:40

ネットワーク交流会 (25号館 9階アゴラ)

別途交流会費が3,000円必要です。

11月19日(日)

10:00～12:00

分科会

▶【第1分科会】(18号館 4階 18A41教室)

地域・行政・学校の連携～地域で育み、地域に活かす～

地域で育み、地域に活かす～コミュニティ課題解決のための多面的ネットワーク “つながる” コミュニティをいかに育むかは、いま社会に課せられた重要な課題だ。多様な人びとの参画による福祉ネットワークづくりをはじめ、地域ぐるみの子育て支援のしくみづくり、地域社会に培われた多彩な「経験知」を活かした『協働教育』の推進、行政・地縁社会・市民活動を結んだ災害に負けないまちづくりをすすめるために、課題解決のための多面的なネットワークの構築が求められている。そうした現代的ニーズに応えたボランティア学習の推進と指導者の役割について協議する。

《事例発表-①》

市民が築いた「子ども」「地域」を考える集会

～9年間の実践で見えたもの～

えひめ子どもチャレンジ推進機構事務局長 仙波 英徳氏

《事例発表-②》

地域は学びの宝庫「かまくら学」の実践

～鎌倉高校と地域との協働によるメニュー開発～

元神奈川県立鎌倉高等学校教諭 大坪 直子氏

《事例発表-③》

『せたがや災害ボランティアセンター』が核となった、行政・大学・地縁組織を結んだ災害ボランティアマッチングシステム

昭和女子大学 興梶寛氏

〈ファシリテーター〉

日本ボランティア学習協会理事 高島 弘行氏

▶【第2分科会】(18号館 5階 18A52教室)

～高校生・大学生の地域での学び・地域にもたらすもの～

学生の地域での活動を通じた学びとはどのようなものなのか、そしてそれはいかにして可能か、さらにその効果と意義とは何か。この問いに関して、本分科会では、「ワークキャンプ」「地域福祉」「社会課題に対する感度」「課題解決力と現場力」「振り返り」「ボランティアコーディネーター」などをキーワードに、事例をもとに検討します。

《事例報告》

社会課題に対する感度を高める

学生ボランティアコーディネーター養成の取り組み

～課題解決力と現場力養成の実際～

新潟青陵大学 中野 充氏

《事例報告》

地域福祉の観点から見るワークキャンプ運動の意味

～実践に内在する二つの価値から考える～

華頂短期大学 名賀 亨氏

《事例報告》

フィールドプログラム策定における振り返りのありかた

～経験学習理論を参照して～

近畿大学 西尾 雄志氏

〈ファシリテーター〉

神奈川大学 齊藤 ゆか氏

▶【第3分科会】(18号館 4階 18A42教室)

～学生のグローバルな活動実践から広がる

ボランティアの可能性と未来～

国内外の学生活動と学びを報告者の事例をもとに考え、新たな活動や学びに繋がります。また一般参加者それぞれの活動の経験を織り交ぜながら、強みをシェアし失敗や課題を解決するための化学反応を促します。これから活動をしたい学生、これまで活動をしてきた学生それぞれに学びの多い大学生のための分科会です。

① グローバルワークキャンプ

⇒国内での留学生の議論による学び

② ユネスコユース (おおいた未来ミーティングでの活動報告)

⇒SDGsを活用した大学生による高校生の学び

③ 全国学生ボランティアフォーラム 実行委員

⇒全国の学生ボランティアの多様な活動

④ タイ・チェンライ ミラー財団での取り組み

⇒海外でのボランティア活動

〈コメンテーター〉

熊本市国際交流振興事業団 事務局長 八木 浩光氏

12:15～13:30

日本ボランティア学習協会 会員総会 (18号館 4階 18A42教室)

お弁当1,000円(お茶付)は参加申し込み時に予約を受け付けます。